# 授業公開に関する報告書
# －「視点」を使った物語教材の分析 －

大　島　丈　志
（教育学部専任講師）

## １．科目名、公開日時、教室、対象学生

教育基礎演習 A、2008 年 12 月 3 日（水）、134 教室
教育学部・学部教養科目、秋学期、3 年生、70 名

## ２．科目全体のねらい、シラバス等

【科目全体のねらい】

教育基礎演習 A は、国語科に関する基礎的事項を学ぶことを目的としている。具体的には､以下の 3 点を中心に､教師としての指導力の基礎となる言語能力を養い、参加者の読み、自己表現の能力を深めることを目標として授業を進めていく。

(1) 詩教材・作文の指導法を学ぶ。
(2) 音読・朗読の指導法、教師の範読の方法を学ぶ。
(3) 代表的な物語教材を使って読みの方法を学ぶ。

【シラバス】

将来国語の授業を行うための基礎的な能力を育成することを目的とした科目である。前半講義、後半演習の形式である。また授業開始後 10 分程度を使い、教員採用試験対策の小テストを行う。

1. 授業のガイダンス－授業の内容について。授業に関するアンケート。
2. 詩教材に関しての基礎的事項を学び、詩教材を自ら分析･鑑賞できる能力をつける。
3. 作文教育に関しての基礎的事項、作文指導の方法を学ぶ。また資料を用いて作文を作成する方法を学ぶ。
4. 小学校から高校までの代表的な国語教材を使用し、音読・朗読・範読の技術を養う。グループ活動を通じて役割読み等の読みの方法を学ぶ。
5. 学習指導要領における文学教材のありかたについての解説を行い、特に読む

ことに関する学習指導要領上の知識をつける。

6. 国語教育、特に物語教材について読みの基本的事項を学ぶ。物語の分析方法を学び、物語教材の読みを行う能力を養う。●授業公開時
7. 小論文の書き方についての基礎的事項を学ぶ。国語科のみならず教員採用試験等でも課せられる小論文の作成法を、作文との違いを明確にしながら学ぶ。

＊毎回の授業の開始10分程度を使用して、教員採用試験対策の小テストを行った。内容は漢字・ことわざ・国語常識・四字熟語・文学史等の過去問題等である。
＊評価は出席状況・発表内容・提出物等を総合的に判断する。
＊テキストは毎回教師が資料を配付する。参考書等は授業中に指示する。

## ３．公開された授業のねらい、内容

【授業のねらい】

本時の授業のねらいは、物語教材を読むにあたって必要な物語の分析方法の一つ、「視点」の役割を学ぶことにある。さらに国語の定番教材を使用して、「視点」を用いて作品の分析が行えるよう演習を行った。

【方法】

前半の講義部分と後半の演習部分に分け、知識の理解した上で、さらに実践するという構成で行った。

前半の講義部分では、「視点」の種類・役割等の講義を行い、後半は学生自らが教科書教材を使いながら演習を行い、物語における「視点」の問題について実践的を通して理解できるようにした。

【内容】

(1) 小テスト（10分）

教員採用試験対策として、教員採用試験レベルの文学史の小テストを行い、基礎知識の確認を行った。間違えたもの、解答できなかったものに関してはノートに書き写させ、学生自身で後にフォローするよう指示を出した。

(2) 物語の分析方法に関する講義（35分）

〇題名について

物語を読む上で看過しがちな、物語のタイトルの持つ役割、効果についての解説を行った。

〇作者について

物語の主人公がイコール作者である、という誤解は、小中高通じて、児童・

生徒に見られる傾向である。登場人物、特に語り手と作者は異なる存在であるということを解説した。さらに宮沢賢治の例などを用いながら、作者について論じるということは、読者主体の創造的行為であることを解説した。

〇語り手について

作中でお話を語っている人（存在）を語り手（または、語り）と呼び生身の作者とは区別する必要があることを解説した。

〇「視点」（語り手の位置）について

「視点」の位置によってその作品の性格が決定付けられることについて、私小説、古典作品、絵本等の具体的な作品を利用しながら講義を行った。解説した「視点」は以下の通り。

一人称視点　語り手は一人称の登場人物に寄り添う。一人称の登場人物の見たもの、心理等が描かれる。
例）私小説　告白小説

三人称限定視点　語り手は三人称の特定の登場人物に寄り添う。特定の登場人物の見たもの、心理等が描かれる。多くの小説に見られる「視点」

三人称全知視点　語り手は複数の登場人物に寄り添う（出入りする）。複数の登場人物の見たもの、心理等が描かれる。
例）古典的物語

三人称客観視点　語り手は人物の行動のみを描写し、心理は描かれない。
例）幼年向け作品

次に、「視点」を知ることの重要性を以下の 4 点にまとめて解説した。

ⅰ）「視点」によって物語の性質を分析することが出来る。

ⅱ）「視点」に変化があったときは場面の変化がある。作者の意図的、もしくは無意識の操作の可能性がある。読者が「視点」の変化に注意して考えることで、作品の理解が深まる。

ⅲ）児童・生徒にとっては、言葉そのものに鋭く着目する訓練となる。「言葉の力」を身につけさせる訓練となる。

ⅳ）児童・生徒に登場人物の心情を読み取らせるためには、教師が誰の心理か理解すること、教材研究として「視点」の理解が大切である。

(3) 教科書教材「ごんぎつね」を使っての演習（35 分）

国語の定番教材である新美南吉「ごんぎつね」（『国語　はばたき』4 下　光村図書）を使い演習を行った。

まず、「ごんぎつね」の黙読を行い、その上で、「ごんぎつね」の「視点」とは何か、「視点」が変化する場所とその効果についてワークシートに記入させた。

学生が記入しおわった時点で解答・解説を行い、さらに非常に細かい部分だが重要な「視点」の変化があることを指摘、その発見を学生に行わせた。以上の演習を通じて「視点」の役割・変化により発生する効果、その上での物語の読みを理解させた。

(4) 物語作品における「視点」の変化の役割とその効果についてのまとめ（10 分）

最後に学生の到達度の確認を行うためにワークシートを回収した。このワークシートは出席確認も兼ねている。

## ４．参観のポイント

前半の講義部分では、多くの学生にとって始めて知る言葉の可能性がある「視点」という概念をいかに分かりやすく理解させるかを工夫した。出来るだけ具体的な作品を例として挙げ、学生への質問や、理解度の確認をしながら講義を行った。

後半の演習部分では、「ごんぎつね」という定番教材を使用することで、学生に将来自らが授業する立場になって考えるという意欲の喚起を行った。

「視点」の変化とその効果に関する理解度、作業の進行度は学生によって大きな差があるため、ワークシートが早い段階でおわってしまっている学生には、さらにもう一点「視点」の変化があることを指摘し、集中力が持続するよう工夫した。

また、作業が進まない学生に対しては個別に対応し、講義の内容を振り返らせる、ヒントを与える、読む部分をしぼらせるなどの支援を行った。

## ５．授業についての自評

物語教材における「視点」の役割を学ぶという本時の目標については、回収したワークシートの分析から、多くの学生が到達できていると考えられる。ただ、一部の学生に、「視点」の変化という概念自体が理解できていないという様子が伺えた。この問題に関しては、次回の講義の中で、板書の形でフォローを行った。

今回の授業では、出来るだけわかりやすく解説することを工夫したのであるが、やはりまだ分かりやすさという点での徹底が出来ておらず、学生の理解度をさらに上げるために今後も研鑽を積んでいきたい。

## ６．授業公開について

私自身は大学授業研究会に開始当初から参加させてもらっており、他の先生方の

授業方法を学び、自分の授業を改善させることには強い興味を持っている。また、実際に大学授業研究会で自ら発表し、他の先生方の発表を聞くことで強い刺激を受けている。

授業公開の試みは、授業におけるテクニックや時間の使い方、学生との距離の問題など教師にとって学ぶべきことの多い貴重な機会だと考える。

今回の授業公開では時間の都合で他の先生方の授業を参観することは出来なかったが次年度は多くの授業を参観し自らの授業のヒントをもらえればありがたいと考える。

今後は、徐々に参加者を増やしながら、緩やかに授業公開の試みを拡大していくのがよいのではないかと思う。

最後に私の授業についてご意見を下さった先生方に感謝をしたい。